



カトリック六甲教会 教会報

2008

8

No.440



私にとって宣教活動とは

小教区評議会 副議長 森川

嘗て私に、カトリックの洗礼を授けて下さった六甲学院初代校長 武宮隼人神父様はよく私達に「見せかけだけの信者になるんじゃないよ。」とおっしゃいました。見せかけだけではない、本物の信者になるにはどうすれば良いのか…。若い頃の私は、よくこの事を自分に問いかけました。そして自分なりに考えた結論は、毎日の生活こそが大切だと言う事でした。何か大きな事をするとするよりも、毎日毎日平凡に繰り返される日常生活の中でこそ信仰が試されているのではないかと思うようになりました。結婚をして、夢中で子育てをし、あまり聖書の勉強もしないうちに年をとり、今度は年寄りの世話で忙しい毎日になりました。目立たない私の毎日の生活ですが、一番身近にいる人をこそ大切にしなければいけないと言うのが私の信条ですから、充実した毎日です。

私の両親はプロテスタントの信者で、しかも本当に熱心な信者の家庭に育ちました。日曜日の礼拝だけではなく、水曜日の夜にも祈祷会と聖書研究があり、両親は熱心に参加しておりました。いくら教会が近く、長い時間ではないといえども、子供にとってそれは少し寂しい事でした。また小さな教会ですから、父は毎年毎年役員と教会学校の教師を努め、家族で日曜日に遊びに行った様な記憶はあまりありません。ですから私はクリスチャンホームでない家庭が少し羨ましかったです。その影響がどうか分かりませんが、私は家族を大切に言うことを一番大切にしてきたつもりです。また子供に係わる PTA や地域の自治会の仕事も一生懸命に取り組んできました。この様に毎日の身近な活動の中にこそ、私の生き方を通して回りの人々に少しずつでも影響を及ぼせたいと思っています。ですからあまり教会で行事が増えるのは賛成ではありません。多忙過ぎるのは決して良くないと思います。

ある時、ふと自分の今日ある信仰の礎は、幼い時から通いつけた教会学校で学んだ事が主である事に気づき、教会学校の重要性を感じました。そして、その様な機会を与えてくれた両親に感謝すると共に、自分もその仕事に携わりたいと思うようになりました。短い間でしたが教会学校のお手伝いが出来たのはとても嬉しいことでした。亡くなった父の介護のため教会学校を辞めたとき、何らかの形で子供に係わっていたいと思い、近くで催されている「絵本の読み聞かせ」のグループに入れて頂きました。そこで指導して下さる方が「絵本や本を読み、学んでいくと、何らかの形で宗

教というものにたどり着くと思います。人それぞれ形は違いますけれど。私たちは言葉を通して、子供達に良いものを伝えていきたいと思えます。」と仰いました。外国の歴史のある絵本は長い間に培われ、根ざした信仰が生活に密着した文化となって自然な形で私たちに神様の事を語りかけてくれます。私も感動しながら、子供達に絵本を読み聞かせ、直接聖書の言葉ではないけれど、その大切な心を伝えて行きたいと思っています。





信徒の教会づくり

私たちの「信徒の教会づくり」を考えていくために、いろいろな方に様々な考えを述べて頂くコーナーです。ご自分の思うところを投稿頂き、みなさまの意見の交換の場になれば、と願っています。



大したことは何も出来なかったが、多くの方々の温かい見守りに支えられ、大役を無事(?)卒業させて頂き、現在は教会とは違った所で社会活動に関わりを持つ機会が大幅に増えている。その活動を通して感じることは、本当に必要とされる処で、必要な力を出させて頂けると言う喜びであり、「ここで手を出すとどう思われるかな?」「出過ぎた態度と思われないかな?」etc。余計な思いに捕らわれることなく、自然体で素の自分のまま行動が出来る幸せである。

翻って教会ではどうであろうか? 私はこう感じている。非常に残念なことではあるが、行動する前に、前述の考えを持たずに“手をあげる”“名乗り出る”“歩み出す”信徒は、果たしてどのくらいおられるだろうか。私自身をも含め、他人の思惑を思い描かずに、一歩前に踏み出すことに躊躇してはいないだろうか。

他の小教区の方々と交わる時に良く言われるのは、「六甲は良いですね。人材が豊富で!」本当にそうでしょうか?確かに人材は豊富であると言えるでしょうが、その人材は存分に活かされているでしょうか。どの集まりをみても、グループ、タイトルは違っても、寄り集まっている顔ぶれはほぼ同じ……と思われませんか?

人間は各々に異なったその人なりのタレントを神様から与えられていると信じています。けれども他人の思惑を気にするあまり、その大切なタレントを土の中に埋めてしまっていないでしょうか。与えて頂いたものは提供するものが“信徒の務め”であり“自分自身を生かす”ことでもあると考えます。

『信徒の教会づくり』が投げかけられて久しいように思いますが、その動きは遅々としていて、いっこうに活発化しない理由のひとつとして、このことは無関係ではないと考えます。

「しんどい思いをした上に、ゴチャゴチャ言われるよりは、他人の後ろで見ている方がまし」思い切ってこの状態から一歩前に踏み出してみませんか?他人の思惑で動くのではなく、“神様の御用を担っている”のだと言うことを忘れずに。

自分自身をも顧みずに、敢えて口幅ったいことを申し述べてきましたが、(言い過ぎた部分は、お許し下さい)教会とは、信徒ひとり一人が力を出して支え、生かしていくところ。何でも“与えて頂ける”“して頂く”から、この辺りでそろそろ、自分から提供する側に回りませんか?この人材豊富と云われる六甲教会が名実ともにその姿になれるように!



(志水)



みんなの広場

みなさまの分かち合いの場になれば、と「みんなの広場」を設けました。みなさまから原稿を頂戴しなければ成立しないコーナーです。どうぞご参加下さい。

「生と死を考える会」

6月16日 日経14版の社会面に15日に行われた「兵庫・生と死を考える会」の講演会が記事になっていた。希有の出来事である。

その記事の中にこんなことが書いてあった。「・・・大森早織さんの母、好美さんが15日、カトリック六甲教会（同市灘区）で事故について初めて講演した。市民団体「兵庫・生と死を考える会」が主催。・・・」

司祭が始め、修道女が推進するグループが「市民団体」と目されている。これこそ現代の教会にとって必要且つ貴重な存在ではないか。

この教会にも種々の活動がある。しかしその中のどれがこの世に「市民団体」として認められ受け入れられているだろうか。教会には信者が教外者の事業に携わることを白眼視する、あるいは反逆視する風潮がある。しかし主は弟子達に狼の群れの中へ行けと命じられた。教会の中に閉じこもってはいはならないのである。

「生と死を考える会」のような活動を教会は積極的に支援し推進すべきであろう。Sr.高木が常に修道者の姿で人々の前に立っておられることも貴重である。その姿を隠すよりははるかに多くの困難に遭遇するであろうにもかかわらず。

プロテスタントに驚愕し門を閉ざして立てこもった教会を神は、400年の間我慢しておられたが、遂に堪忍袋の緒が切れて目を覚ませとヨハネス23世の尻をたたかれた。門を開いて外に出よと。

（ヨハネ 三好）

地球温暖化のつけを未来の人類に残さない

産業革命以来、あまりにも急激に多大なエネルギーを空に向け放出したことによって地球の気候の変動が起きています。今、対処しておかないとこの地球は大変なこととなります。既に片鱗が見えています。

上昇する海面 北極、南極、そのほかの氷が溶ける 洪水と干ばつが襲う 穀物収穫の混乱と飢餓 動植物の種の絶滅 熱い気候が病原菌を増やし病気が増える 海流の変化による漁獲量への影響 川や湖の水質の悪化

浦島太郎の玉手箱を開けてしまうような心境ですが、ゴア氏の「不都合な真実」の本の写真を見て、今、世界のおかれている状況がよくわかりました。物が溢れて物に頼りきってしまい、人間同士の「睦み」さえ失いかけている世界の人々は、もう一度神の心に立ち返る生き方を見つけなければと私も反省しています。

『見ても見えず、聞いても聞こえず、それはあなた方の心が曇っているからだ（イザヤ書）』

（山本）

ポーランド巡礼



6月23日～7月2日、ポーランド巡礼団を引率。

ワルシャワ、コルベ神父の活躍していた二エポカラヌフでの共同司式ミサを皮切りに、楽聖ショパンの生家、ヴィラヌフ宮殿、聖ヨハネ大聖堂、十字架教会等を訪ねた後、ポーランドカトリックの聖地チェンストホワへ移動。「黒い聖母」のイコンで有名なヤスナグラ修道院で旅行団のみでミサをあげた。黒い聖母は奇跡を呼ぶとされ、ポーランド国民から深く愛されており、全世界から多数の巡礼者が訪れる。ミサ後、日本から巡礼団が訪問したという事で国営放送のインタビューを受けた。ポーランドの国は親日家が多いと聞く。

(黒い聖母) 翌日、コルベ神父とエディットシュタインの終焉の地、世界遺産アウシュヴィッツ、ヴィエリチカ岩塩坑を訪ねた。岩塩坑(地下百米と深い)は採掘跡の巨大な空間を利用し、宮殿・聖堂などがしつらえられている。全て塩の結晶で作られ、聖画のレリーフ・彫像は美しく見る人の胸を打つ。

ポーランド第二の都市クラクフではバルバカン砦、中央市場広場、ワヴェル宮殿、チャルトリス美術館、聖マリア教会等々、古きよき時代の遺産に目を見張った。

前教皇ヨハネパウロ 世によって列聖された聖ファウスチナの修道院も訪れた。聖堂は巡礼の人々で溢れ返っていた。聖ファウスチナに出現されたイエスは心臓より赤と青白い2本の光が放たれている。青は水、赤は御血を表す。「二つの光は十字架上で苦悶していた私の心臓が槍で貫かれた時に、私の慈しみの深淵から流れ出た。この二つの光のもとに生きる人は幸い、神の御手が彼ら靈魂を守るからである。」と告げられたとのこと。私たちは祈りを捧げ聖堂を後にした。



(慈しみのイエス)

前教皇ヨハネパウロ 世の故郷ワドヴィツの大聖堂でミサを共同司式した。ポーランド人の心の豊かさに触れることのできたミサであった。この聖堂の裏手に前教皇ヨハネパウロ 世の生家があり、現在、記念館になっている。

最後に訪れたのが世界遺産ザモシチ。イタリアルネッサンス様式の建物群が並ぶ美しい町。小さな町であるが大聖堂内部は素晴らしく、ポーランド人の信仰の厚さを物語る。

この巡礼で深く印象に残ったことは、やはりコルベ神父とエディットシュタイン(カルメル会。哲学者。ユダヤ教からカトリックへの改宗はアビラのテレサの自伝を読み、決心したといわれる。)とポーランドの美しい自然であった。二人の足跡を辿ると、揺ぎ無い信仰、神への信頼に出会う。人類への愛のメッセージたる福音は伸びやかな風となって我らの心に響く。自ずと手が合わさる。

ポーランドは人口の92%がカトリック信徒であり、経済的には厳しい社会かも知れないが自然を見ていると心は非常に豊かな国と強く感じた。(安芸神父)

ポーランド巡礼に参加して

以前よりポーランドを訪れたいと思っておりましてので、とても楽しみにしていた巡礼でした。

前教皇ヨハネパウロ 世の母国、ショパンコンクールが開かれている国、国民の92%がカトリックと聞いておりましてので、どのような国なのか、心躍らせて出発しました。期待通りの国でした。中世ヨーロッパのカラフルな町並みが続き、少しバスを走らせると広大な自然、恵まれた農園や村が広がり、とても美しい国でした。出会う方々も素朴で温かい好印象が残りました。特にポーランド人のガイドさんが本当に温かく、優しい心遣いのできる方で、私たちの巡礼に花を咲かせて下さいました。

コルベ神父様で知られているアウシュビッツも訪れました。予想以上に辛く悲しい場所でしたが戦争の悲惨さと平和の大切さを身を持って感じ、祈りを込めて歩かせて頂きました。映画や本で知っていた積もりでしたが、この地を訪れて実際にこの目で触れる事ができました事(平和の大切さを痛感できました事)に感謝したいとお思います。神父様始め30名の方々とも親しくさせて頂き、新たな出会いが沢山ありました事を嬉しく思います。この巡礼が終わりではなく、また新たな出会いの一步となりますように心より感謝と共に願っております。(平林)

第四回典礼奉仕者の集い 報告

日時：6月22日(日)・6月29日(日) 13:30～15:30

参加者：案内係・お花当番・先唱者・オルガン奏者・独唱者・朗読者・祭壇奉仕者・聖体奉仕者

最初に、コリンズ神父様が「識別について」というテーマでお話くださいました。

「識別」と「決定」との違いは、「識別」は感情がつかさどり、感じること。「決定」は理性がつかさどり、考えることである。個人としての識別について例を言えば、「結婚する」ことは決定。「その相手をこの人だ!」と選ぶのは識別である。

識別する時、前提には祈りがあること。ここでいう祈りとは、祈りの言葉を唱えることではなく、神様の前に自分自身を全部さらけ出して、本当の自分を知るようにすること。神様といつも一緒にいるという意識をすること。それには生活の中で、毎日反省すること。自分の感性を掴むことが必要である。周りの人の評価を考えないで、神様と私の関係の中で神のみ旨のために動いているかどうかを唯一の基準としていれば、自分の中で神の霊が動くのを感じ、識別できる。

その後、小グループに分かれ、「より良い典礼への反省と提案 最近のミサで気が付いたこと、気になったこと」というテーマで分ち合いをし、活発に交流できました。この分ち合いで出たたくさんの反省と提案を、これからの典礼に活かしていきたいと思えます。

参加者は22日(日)、29日(日)とも35名でした。多くの奉仕者にご参加いただき、ありがとうございました。(典礼部)



『 第 12 回囲碁・将棋大会を終えて 』

同好会世話人 山田

去る6月28日(土)、囲碁18名・将棋4名、計22名、満員の盛況で競い合いました。優勝は高田さん(囲碁)と千原さん(将棋)でした。

最近の傾向として、優勝者は予想がつかなくなってきました。

よろしきや、よろしからざるや!

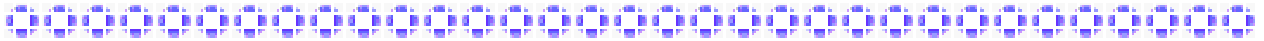
将棋の方が少なく、淋しい状況です。土曜日の午後のぞいて見てください。



(桜井神父のこんな真剣な顔、見たことない!)



囲碁優勝決定線 高田氏x伊豆氏



混声合唱団 活動 1【6月28(土)】

6月28日(土)午後、教会の混声合唱団は“うみのほし”の方々の明るい笑顔に迎えられました。90名の入居者のできるだけ多くの方に聞いて欲しいと、5・4・3各階で同じ8曲を歌いました。「早春賦」から始めて、花・月の歌で春を味わい、「荒城の月」で昔に戻り、「鉄道唱歌」で懐かしい故郷にたどり着いて歌は終わりました。「鉄道唱歌」には阪急線の三宮から梅田までの駅名を入れた一節も入っていました。幼いころ、若い時を思い出してうれしそうに手拍子を取る方、声をあわせて歌う方、思い出に心を揺すぶられたのか涙をふいている方……。合唱団の中にも目を潤ませている姿がありました。日ごろあまり表情のない方の中にもいきいきとした顔を取り戻して聞かれた方もあったとか。数ヶ月の練習の努力が報われた交わりの一時でした。(Sr.小南)



混声合唱団 活動 2【7月9日(水)】

コンサートが始まる前から入居者の方やディサービスご利用の方、職員にまでお声を掛けて頂き有難うございます。温かい雰囲気の中、聞かせてもらいました。歌も皆さんが口ずさめるよう、知っているものを選んで下さっていて、とっても良かったです。なにより普段、反応の少ない方が相槌をうち、声の出ない方が口を開き、頭でリズムを取られている姿に音楽の素晴らしさを改めて感じさせられました。

コーラスをされている皆さんひとりひとりのお顔がとってもやさしく感じられ、自然と歌をうたい、楽しく時間が過ごせました。歌はその場にいる人の気持ちを一つにさせ、気持ちも明るくすがすがしくさせてくれますね……。

とても素晴らしい活動をされている六甲教会の皆様、この場をお借りして感謝いたします。これからもうみのほし一同楽しみにしていますので、よろしく願い致します。(うみのほし魚崎 スタッフ)



主任司祭の地平線

今回は司祭団の夏の予定をお知らせしたいと思います。

- 1) まず教会学校キャンプは8月5日～8日、中高生キャンプは8月12日～15日まで、両方とも片柳助祭が同行します。桜井神父もアッシー君や料理味見役として参加予定です。
なお、片柳助祭は9月20日東京での司祭叙階式に向けて、その準備と叙階前の黙想のため、8月29日～9月20日(土)当日まで不在となります。
- 2) 安芸神父は8月10日～19日まで、黙想指導のため不在です(なお、コリンズ神父が12日～19日まで教会司祭館で留守番をして下さいます)。
- 3) コリンズ神父は8月25日～9月2日まで、ご自分の黙想のため不在となります(近隣の修道院におられるので、8月31日の主日ミサには来て下さいます)。
桜井神父も同じ日程で、年の黙想をする予定です(教会司祭館で留守番少々、静かに！祈っています)。
皆様も心豊で安らぎのある夏休みでありますよう祈っています。司祭団のためにもお祈り下さい。

～．．．～．．．各部だより～．．．～．．．

婦人会

8月1日(金) 初金 ミサ 10時
23日(土) 納涼の夕べ ミサ 17時
お手伝い担当地区の方
東1・2、中4・5
宜しくお願い致します。

社会活動部

8月6日(水) 手芸の集い お休み
9日(土) 炊き出し お休み
17日(日) 手作りコーナー お休み
8・9月の手作りコーナーはお休み
次回連絡会は9月4日(金)
10時ミサ後 開催予定です。

教会学校

8月5～8日 キャンプ(兎和野)
教会学校は9月12日まで夏休み。

三日月会

8月3日(日) 三日月会喫茶
10時ミサ後～12時
8月の例会は休会

中高生会

8月12日～15日 キャンプ(そうめん滝)

青年会

定例会

8月10日(日) 10時ミサ後 11:30～
内容:納涼の夕べの買い出し。
8月24日(日)の定例会は、夏休みです

納涼の夕べ

8月23日(土)
当日の準備スタッフ大歓迎です。
一緒に楽しく準備しましょう!



《お 知 ら せ》

各部からの活動の連絡ですが、広く信徒の皆さんに呼びかける内容の記事をここに記載いたします。教会活動の参考になさって下さい。

結婚講座について

結婚講座について、下記2点 お知らせいたします。

1、今後の開催日程について

全5回(5回目は各カップルと司式司祭の個別面談)
2008年9月7日(日)～9月28日(日)

来年の開催日 2009年2月1日(日)～2月22日(日)
5月10日(日)～5月31日(日)
9月6日(日)～9月27日(日)



2、主催者変更について

新プログラムに改定され、現在まで結婚講座は神戸地区主催となっておりましたが、2008年5月から神戸地区評議会の了承を得て、六甲教会主催と元に戻すことになりました。スタッフの連絡や会計等講座運営上、単独教会主催の方が管理しやすいためであります。内容的には今までと全く違いはなく、また神戸地区に限らず広く参加者のために奉仕することになっております。

【養成部より】

8月のプログラム

1、平和旬間合同礼拝

8月10日 13:30より 六甲教会大聖堂にて
日本キリスト改革派神港教会 岩崎謙牧師からメッセージを戴きます。

2、聖書朗読リレー

8月30日 8:00より 六甲教会小聖堂にて
朗読箇所は詩編、ホセア書、使徒の書簡集、ヨハネ福音書です。
60名の方々と10時間読みつなぎます。詳細はチラシをご覧ください。



【社会活動部より】 シナピス 平和旬間行事

第2回“広島平和への道”巡礼

8月5日(火) 8:30 新神戸駅集合



神戸地区平和旬間 『平和の祈り』

8月9日(土) 13時～ 於：住吉教会

第1部 祈りと分かち合い

第2部 『山口ブラザーズバンド』演奏とお話

第3部 交流会



～．．．．． kakubu 紹介 ．．．．．

図書室

信仰には本(学問、教養)などいらない、妨げにさえなる、という論し、という

か、嘆きのことばが洋の東西を問わずあります。「八万の法蔵を知るも愚者、一文不知でも智者」蓮如)

しかしそうした教え自体もまた、本(書き物)によって伝えられてきたものと思います。そんなこんな、人の心を正し、あるいは養い、時には慰め、癒やす本と出会える場があれば、人生の恵みだと思えますが、その点で私たちの六甲教会が伝統的に読書環境を大事にしてくださっていることは、信徒にとってたいへん有難いことと思います。

<図書室が集めているもの>

蔵書は、阪神淡路大震災時に既にあった、いわば古い本がベースになっており、新刊書も毎年の図書予算のお陰で大分増えてきました。見た目には随分古くさい本でも、よいのがあったよ、と喜ばれる読書家もあります。図書室はスペースとの戦いですが、よい古書はできるだけ残すよう図ってまいります。日頃の皆さんの利用状況を見ていると、ニーズは実にさまざまで、多方面の本が求められていることが分かりますので、ある程度総花的なコレクションになるのは止む得ない所です。個人蔵書や、特定目的の専門図書館とはちがう所以です。

ともあれ、何を集めるかは難しく責任を感じる問題です。教会図書という視点に立って、多方面のお声、ご要望を聞かせて頂きながら、書評にも広く当たるなどして試行錯誤しながら選んで行くしかないのではと、今のところ考えています。たゞ、寄贈を受ける場合、又は古本市(バザーなど)で安く購入できる場合は、選択の基準を若干ゆるめて幅広く収集することが可能となります。そうして集まったものは結構バラエティに富んでいて、教会を知らない方々に対しても、教会や図書室にご案内する場合の“敷居”を多少とも低くするのに役立つのでは、と思っています。

最近は音楽関係のCDなども大口の寄贈を受けたり、古本市で買わせてもらうなどで充実して来ました。今後はご高齢、病床の方などのことも考え、講話、講演などの視聴覚関係も少しずつ増やしていければと考えています。

<整理と利用の促進>

図書室では広いようで狭くもあるスペースのやりくりの中で、どこにどう並べれば、又はどんな方法を使えば探しやすくなるか、果ては部屋を居心地よく有効に使うには等々、利用者の目で見つ模索を続けています。

コンピュータ・ソフトで図書管理をすれば一挙に解決できる面が多いとはいえ、予算面に限らずその条件がありませんので、小さなアイデアの積み重ねで対応しております。しかし索引や蔵書リストなどの作成でコンピュータを利用するようになってから、随分改善できた部分もあると思っています。とはいえご不便、ご不満を感じておられるところも多いことでしょう。数年前、教会で図書に関するアンケートを実施させて頂きましたが、現在も常時ご意見を頂く箱を図書室入口に設置しておりますのでどうぞ遠慮なく声をお聞きかせください。

図書室が皆さんのよい本との出会いに、1つでも多くつながりますようにと願っています。

尚、現在図書室では、10余名が微力ながらご奉仕させて頂いています。 (図書：柴田)



<図書紹介>

『かけがいのない人間』

上田紀行 著

上田紀行著『かけがいのない人間』は、「人間は使い捨てだ」という考えが横行しつつある現代社会の中で、「人間は(自分は)かけがいのないものだ」という実感がいかに大切かを説いています。近年起こる社会現象や事件の背景を考えると、著者の指摘することの一つ一つの的を射ているように思われます。

東京・秋葉原の通り魔事件では、7人もの尊い命が奪われました。決してあってはならない凄惨な事件でありながら、「人を殺したことは絶対に許すことはできないが、容疑者の携帯サイトの掲示板の内容については共感できる」という声が、派遣社員など彼と似た境遇にある若者中心に広がっている点で、これまでの事件とは異なっています。容疑者は5月下旬に匿名の相手からネット上で「自分に値段をつけたら？」と聞かれて「無価値です ゴミ以下です」と答えていたそうです。6月下旬に工場から姿を消した後、「人が足りないから来いと電話が来る。俺が必要だからじゃなくて、人が足りないから。誰が行くかよ。」とも書き込んでいたようです。

確かに現代社会は、この容疑者の書き込みにもみられるように、自分が無価値であり誰とでも交換可能な存在であるという思いを、多くの人々に容易に抱かせる社会になってしまっています。『かけがいのない人間』の著者は、ダライ・ラマとの対談や自分の過去の体験を振り返り分ち合いながら、一人ひとりが「無価値」でも「交換可能な存在」でもなく、「かけがいのない存在である」ことを実感する大切さを主張しています。そのためには自分の人生を掘り起こし、一見ネガティブな出来事を含めて過去の体験を振り返る中で、その奥に潜む「意味」を見出すことが必要であると述べます。そしてよい世の中を創り出すために他人に頼ることなく、未来の希望に向って自ら行動することが「かけがいのない」人になる道であると主張します。さらに「かけがいのなさを取り戻す行動、それは一言でいえば、『愛されるよりも愛する人になる』ということですよ。」と語ります。

著者は仏教に造詣の深い文化人類学者ですが、語る内容はキリスト教と様々な点で共鳴します。現代人がめざすべき方向性を示す、示唆に富む著作であると思います。 (高橋)

8月の予定

		教会暦	教会行事
1	金	聖アルフォンソ(ワリ)司教教会博士	初金 7:00 10:00 ミサ
3	日	年間第18主日	7:00 10:00 ミサ 17:00 海星病院集会祭儀
4	月	聖ヨハネ・マリア・ピアンネ司祭	
5	火		教会学校キャンプ(8日まで)
6	水	主の変容 日本カトリック平和旬間(15日迄)	
8	金	聖ドミニコ司祭	10:00 集会祭儀(殉教者から平和を考える)
10	日	年間第19主日	7:00 10:00 ミサ 13:30 平和旬間合同礼拝 17:00 海星病院集会祭儀
11	月	聖クララおとめ	
12	火		中高生会キャンプ(15日まで)
14	木	聖マキシミアノ・マリア・コルベ司祭殉	
15	金	聖母の被昇天(祭日)	7:00 10:00 ミサ
17	日	年間第20主日	7:00 10:00 ミサ 17:00 海星病院集会祭儀
20	水	聖ベルナルド修道院長教会博士	
21	木	聖ピオ十世教皇	
22	金	天の元后聖マリア	
23	土		17:00ミサ(19時ミサはありません) 納涼の夕べ
24	日	年間第21主日	7:00 10:00 ミサ 17:00 海星病院集会祭儀
27	水	聖モニカ	
28	木	聖アウグスチヌス司教教会博士	
29	金	洗礼者聖ヨハネの殉教	
30	土		8:00 聖書朗読リレー
31	日	年間第22主日	7:00 10:00 ミサ 17:00 海星病院集会祭儀

編集委員のつぶやき ギンコウボク(銀香木)をご存知ですか。ギンコウボクの花はとても良い香りがするそうです。中国四川省成都ではギンコウボクの花を糸でくくり服に着け香水代りとして身につけるそうです。花の甘い香りは人々に元気を与え、心を和ませ、なんとも言えぬ幸福感を与えてくれるそうです。花売りは花2つを1束にして8円で売っている。8円で至福が味わえる。なんとも羨ましい、興味をそそる花です。(浮き雲)



教会報 9月号の発行は、8月31日(日)です。 編集会議は8月24日(日)です。 記事原稿は、8月17日(日)正午までに信徒会館受付へご提出願います。(広報部) http://www.rokko-catholic.jp	カ ト リ ッ ク 六 甲 教 会
	〒 657-0061 神戸市灘区赤松町 3-1-21 電 話 078-851-2846 F A X 078-851-9023 発行責任者 桜井彦孝 神父 編 集 広 報 部